

山内封介 やまうち ふうけい 評論家。明治二十一年福岡縣生れ（ニハス）。明治四十四年（止教神學）卒。

譯著書、ゴンチヤロフ作『オプローミノ』全二冊（譯、上・大正六年一月、下・五月五日新潮社「縮刷全譯叢書」）、『トルストイ叢書・川上廣造手形』（譯、大正七年四月十八日新潮社）、『シベリヤ秘史―出兵より撤兵まで』（大正十一年二月、二十日日本評論社出版部）、『露國の諸政黨と其沿革』（編、大正十一年五月五日世界思潮研究會「世界パンフレット通信」）、『レーニン』（大正十二年四月十五日金屋堂）、『ロシア革命運動史』（I・大正十五年二月、二月、II・小ブルヂエヤ知識階級の革命運動時代、四月、二十日金屋堂）、『ロシア文學史』（内題「ロシア文學史」昭和二年一月、二十日金屋堂）、『トルストイ未發表作品集』（譯、昭和四年五月十五日新潮社）、『メレジコフスキイ著「露世革命の豫言者」』（譯、昭和四年九月十五日第一書房）、『赤蓮將校陰謀事件の真相―スターリン暗黒政治の曝露（附録・國際反共聯盟趣意、同會則、同役員）』（昭和十一年七月八日國際反共聯盟調查部）、『メレジコフスキイ著「文藝論」』（譯、新裝版・昭和十五年十一月十日第一書房）等。

